

# 道徳学習指導案

日 時 平成 27 年 6 月 4 日 (木) 研究授業Ⅱ  
学 級 岩手大学教育学部附属中学校  
2 年 B 組 (男子 20 名, 女子 20 名, 計 40 名)  
場 所 1 年 B 組教室  
授業者 伊 藤 貴 洋

## 1 主題名 「働く」ということ 【4－(5) 勤労・奉仕・公共の福祉】

### 2 単元について

#### (1) 生徒観

生徒たちは男女の仲が良く、明るく元気な生徒が多い。道徳の時間が好きな生徒が多く、授業中の小グループでの話し合いの場面では、積極的に自分の意見を発表し、活発な意見交流が行われることが多い。一方で、学級全体での意見交流の場面では、積極的に挙手をする生徒も見られるが、自分の考えを発表できない生徒も多い。また、道徳の時間は答えがないので苦手だという考えを持つ生徒や、規範的な行動や考えを持つ主人公について、現実的ではないと考える生徒も少なくない。

本校の総合的な学習は三年間を通して、「人生をいかに生きるか」というテーマで学習を進めている。本学年の生徒は、一年次に「夢の実現のために必要なことは何か」というテーマのもと、自分の身近な人で興味がある職業で働いている人へのインタビューや、将来就きたいと考えている職業の職場訪問、仕事へのこだわりを持った方の講演会などの活動を行い、自分の将来の生き方について仮説を立てながら学習を進めてきた。今年度は『誠をもって働く』とはどのようなことだろうか」というテーマで学習を進めている。「働く」ということについての生徒の意識を知るために「仕事は誰のためにするのか」と生徒にアンケートで聞いたところ、「自分のため」「家族のため」にお金を稼ぐことという回答が非常に多く、「社会のため」や「家族以外の誰かのため」という回答は少なかった。このことから、生徒にとっての「働く」ことは賃金を獲得するために手段ととらえている生徒が多く、公共の福祉のためという意識が低いということがわかった。

#### (2) 価値について

学習指導要領において、内容項目 4－(5) は、「勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める。」としている。

自分の進路や職業について関心が高くなってくるこの時期に、勤労の尊さや意義について考えられるようにするとともに、働くことについての理解を通して職業についての正しい考え方を育てることや公共の福祉に努めようとする態度を育てることが大切である。指導に当たっては、勤労の尊さを重んじる生き方を基に、奉仕の精神をもって自ら進んで、それを実践しようとする態度を培うことが大切である。その際、社会への奉仕に伴う喜びが自らの充実感として生徒一人一人に体得され、心から満足でき、生きがいのある人生を実現しようとする意欲にまで高めることを忘れてはならない。このような指導を通して、個人の立場を越えた社会全体の利益を大切にすると、公私の別を明らかにして、自分のできることを自覚し公共の福祉のために尽くそうとする態度の育成が望まれる。

### (3) 学びの本質とのかかわり

本研究が掲げる『学びの本質』に関して、道徳では「自己内対話と他者との対話のサイクル」を通して新たな価値観を再構築させ、「自分の価値観を言語化させること」を授業内で意識的に行いたいと考える。道徳の時間では、自分自身への内省的な働きかけとしての「自己内対話」や、自分の考えの根拠を明らかにして話したり、他者の考えを聞くことによって自分の考えを深めたりする「他者との対話」が重要な学習活動となる。そして、それらを通して、現在の自分の価値観と多様な価値観を比較しながら、深まり・広がりを経て起こる新たな価値観の再構築が「道徳的実践力」につながるととらえている。このような自己内対話と他者との対話のサイクルを授業の流れの基本としておさえる。

## 3 資料について

### (1) 資料名 【自作資料】『「働く」ということ』

### (2) 資料のあらすじ

2011年3月11日に発生した東日本太平洋沖地震は、東北地方太平洋沿岸部を中心に甚大な被害をもたらした。地震発生直後から、日本全国からだけでなく、世界からも救援のための物資や募金が集まり、被災地に届けられた。一方で、沿岸部の被災地では、地元自治体や自衛隊の手によって物資が避難所に届けられていた。そんな最中、流通のノウハウがあり、地元の道を知り尽くすヤマト運輸の沿岸部の各支店では、自身の生活や家族よりも仕事を優先し、従業員の安否の確認や、避難所への物資輸送のボランティア、そして宅急便再開に向けて奔走し続けた。

本時の資料は震災時にどのような状況であったのか、震災当時の釜石支店の熊上猛支店長と、大船渡支店の鈴木孝弘支店長お二人にお話を伺い、読み物教材としたものである。また、生徒にとってまだ理解しづらい公共の福祉のために尽くそうとする態度についてとらえさせるために、実際にお二人の支店長が「仕事」について話している様子も映像資料として用いる。

## 4 本時の展開

### (1) ねらい

働くことの意義について考え、公共の福祉に努めようとする心情を養う。

### (2) 本時の指導の構想

導入では、朝日新聞に掲載されたがれきの中を進むヤマト運輸の車両写真を生徒に見せ、何を運んでいるのか問いかけた後、ヤマト運輸の被災者支援の活動の概要に触れ、資料へとつなげたい。

展開前半では資料を範読し、支店長の家族やこれまでの仕事の歩みについて資料に記述されていない部分も補いながら、内容の確認をしていきたい。その中で、家族と連絡が取れないまま仕事を続けた支店長の心情を問い、全体で交流する。

展開後段では、支店長のインタビュー映像を見せ、仕事への誇りが表れている言葉について生徒に自己内対話させる。その後、グループ内で他者との対話をさせ、グループ内でどのように考えたのか発表させる。全体の意見交流後に、二人の支店長のインタビュー映像を見せ、仕事へのこだわりや、お客様を第一にする姿勢に触れさせ、ねらいに迫りたい。

終末では、支店長の行動から学んだことについて振り返らせ、2～3人の生徒の感想発表の後、教師の説話で本時のまとめとしたい。

(3) 本時の展開

段階	学びの流れ	学びの展開（広がり）	指導上の留意点
導入 7分	1 がれきの道を進むヤマト運輸の車両の写真を見る。 2 本日の学習内容について把握する。	○このトラックは何を運んでいるのだろうか？ ・荷物 ・支援物資 ・遺体 *ヤマト運輸の釜石支店，大船渡支店が行った活動についての授業であることを理解する。	・本時の内容へ興味を抱かせ，資料につなげる。
展開 33分	3 資料を読み，内容を把握する。 4 資料について確認する 5 資料について話し合う 6 熊上支店長のお話の映像を見て話し合う 7 二人の支店長の映像を見て，自分の考えを振り返る	・資料を読む。 ○熊上支店長は震災直後どのような活動を行ったか？ ・荷物の返品 ・従業員の安否確認 ・トラックの搜索 ○熊上支店長の家族の安否は確認できたのか？ ・していない ◎家族と連絡が取れないまま仕事を続けた熊上支店長についてどう思いますか？ ・すごいと思う ・責任感がある ・家族が心配だっただろう ・家族の人達も熊上さんのことを心配している ◎「ヤマトの看板を背負ってると変なことできないですよ」という言葉についてあなたは どう思いますか？ ・自分の仕事に責任感がある。 ・誇りを持って働いている証。 ・今までお客様に対して誠実に仕事をしてきたからこのような言葉が出る *仕事への誇りや責任感が表れている二人の言葉を聞き，自分の考えを再構築させる。	・荷物の返品についての内容を説明する。 ・熊上支店長の家族について補足する。 ■学習シート ・決して家族のことを軽んじていたわけではないことを確認する。 ■学習シート ●自己内対話 ●他者との対話 ※学びの本質
終末 10分	8 本時のまとめ	○今日の授業を振り返りながら自分の考えをまとめてみよう。	■学習シート ・自分自身のこととしてどれだけ考えることができているか

(4) 板書計画

「働く」ということ

釜石支店 熊上支店長

大船渡に奥さんと娘さん（中三）

荷物の返品 トラックの搜索

従業員の安否の確認

家族と連絡が取れないまま仕事を続けた熊上支店長についてどう思いますか？

- ・ 責任感がある
- ・ 仕事を優先するなんてすごい
- ・ 家族のことが心配で、仕事にならないのではないか
- ・ 家族も熊上支店長が心配なのではないか

「ヤマトの看板を背負っていると変なことできないですよ」という言葉についてあなたはどう思いますか。

- ・ 仕事に誇りを持っている
- ・ 今まで積み重ねてきたお客様の信頼を失うわけにはいかない
- ・ 自分のことよりもお客様のことを優先している
- ・ 誰かの役に立っているという自負

## 「働く」ということ

釜石支店 支店長熊上猛<sup>くまみたくし</sup>支店長（当時）のお話

私が働いていたクロネコヤマト釜石支店は釜石市と大槌町の荷物の集配を請け負う店舗です。午後の荷物が支店に届き、仕分けをしようとしていた、二〇一一年三月十一日一四時四六分。今まで経験したことのないくらい大きく長い揺れが、釜石を襲いました。

私は絶対に津波が来ると思ったので、配送に出ているトラックに至急戻るように連絡しました。しかし、三台の車両と連絡が取れませんでした。トラックを支店に戻すために、数名で手分けして車で回ったところ、一台は見つかり、すぐに戻らせましたが、残りの二台と連絡が取れないまま、津波はやってきました。

震災翌日から数日の間は、すでに受け取っていた荷物の返品作業と、一台のトラックの搜索、そして従業員とその家族の安否の確認をしました。特に大変だったのが安否の確認でした。瓦礫がかるうじてどけられた細い道を通り、釜石、大槌の従業員一人一人の安否を確認しました。ある避難所で、搜索していたトラックのうち一台のドライバーが無事に避難していることが確認できましたし、もう一台のドライバーは自力で釜石支店に戻ってきました。避難所だけではなく、もしもの場合も考えて、遺体安置所も回りました。何日かかかって、当日勤務していた従業員全員の安否は確認できましたが、大槌の配送センターに勤務していて、当日休みだった従業員一名が津波にのまれて亡くなりました。

従業員の家の訪問をしていると、家族の安否が確認されていない者、家が流された者など様々な状況でした。被災した社員は家庭を優先させ、仕事ができる状況になってから勤務してもらい、当面の間は仕事ができる状況の社員だけで仕事を進めました。

私自身も、住んでいたアパートが流されたんですよ。会社に寝泊まりを十日くらいしました。私の家族は、大船渡に住んでいたのですが、電話はつながらず、とても心配でした。でも、やらなければならない仕事が多く、連絡を取ることはできませんでした。結局三日後に、妻の方から連絡が来て、家族が無事だということを知り、ほっと胸をなでおろしました。

震災直後は、高速道路もストップしていたので、会社として集配の業務を行うことはできませんでした。でも、少しでも地域の役に立ちたいと思い、社員の安否確認と並行して、市にボランティア登録を行い、釜石市の職員や自衛隊と協力しながら支援物資の運搬作業を始めました。土地勘のない自衛隊の隊員さんがすべての避難所を回ると夜遅くまでかかるのだそうです。我々は裏道を知っていますし、効率的に回るためのルート作成などは普段の仕事でやっているのです、一日に何度か避難所を回れるようになりました。

震災から、半月ほど経って、沿岸部への荷物の集配が開始されました。しかし、釜石市と大槌町のお客様宛の荷物は遠野支店留めとするという本社からの指示でした。私は、車を流された人やガソリンスタンドに並んでいる人たちを見ってきましたし、遠野まで取りにいけないお年寄りが多くいることも知っていたので、支店長判断で釜石支店まで持つてくるようお願いし、本社の判断は聞かずに配達を始めました。お客様に荷物を届ける仕事ができる喜びを実感しましたね。

平成27年 6月 日

2年 組 番  
名 前

「働く」ということ

家族と連絡が取れないまま仕事を続けた  
熊上支店長についてどう思いますか？

自分の考え

周りの人の考え

今日の授業の振り返り

## 他者との関わり～温かい言葉を広めよう～

1年 組 番 名前

- (1) どのような状況の時に、周りの雰囲気を壊したり、相手を傷つけたりする言葉を使ってしまうのだろうか。【個人】

---

---

---

---

---

- (2) 温かい言葉を増やすにはどうしたらいいだろうか。【個人】

---

---

---

---

---

- (3) 話し合い活動【グループ】

memo





